

## うかいさん 鶺鴒伝説と鶺鴒山

山梨には、謡曲「鶺鴒」とよく似た内容の、次のような伝説が残されています。源平合戦によって没落した平家の一族、平時忠が甲斐国石和にさまよい、当時、殺生禁断であったこの地で夜な夜な鶺鴒を行っていたため、地元の人々によって川底に沈められてしまいました。その後、時忠の亡霊は鶺鴒の姿で度々現れ、人々を悩ませていたところ、文永 11 年 (1274)、石和に宿した日蓮聖人が時忠の亡霊と対面し、供養のため法華経の経文を一石に一文字ずつ書写した経石を川に沈め、時忠の亡霊は成仏いたしました。

鶺鴒の亡霊は平時忠とも鶺鴒助作とも伝えられていますが、日蓮聖人が法華経の石に書いて供養する鶺鴒伝説は、江戸時代になくとも様々な形で人々に広まり、日蓮聖人の伝記として欠かさない逸話となりました。



遠妙寺に伝わる七字の経石  
(ガラス容器に入っている)



新編「鶺鴒」の一場面  
鶺鴒祭りの地、鶺鴒山遠妙寺にて  
(観世流能楽師 齋藤秀雄氏)  
【重要無形文化財保持者】

## おんみょうじ 鶺鴒山遠妙寺

鶺鴒伝説ゆかりの地にあった寺院は、江戸時代初めに「鶺鴒山遠妙寺」という寺号に改められ、鶺鴒伝説の霊場として多くの参拝者を集めました。遠妙寺とその周辺には、現在も伝説にかかわる宝物や史跡が伝えられています。とくに遠妙寺に伝わる経石は、日蓮聖人ゆかりの宝物として信仰を集め、また甲斐国の名物として知られるようになりました。



鶺鴒山遠妙寺の山門



鶺鴒供養塔

## アクセス



### JR 中央線利用の場合

新宿駅	JR 中央線特急 1 時間 50 分	石和温泉駅	
名古屋駅	JR 中央線特急 2 時間	塩尻駅	JR 中央線特急 1 時間
新大阪駅	東海道新幹線 2 時間	静岡駅	JR 中央線特急 2 時間 10 分
		伊府駅	JR 中央線 5 分
		石和温泉駅	

### 中央自動車道利用の場合

新宿	中央自動車道 1 時間 20 分	一宮宮坂 IC	R 20 10 分	石和温泉駅
名古屋小牧 IC	中央自動車道 3 時間	飯代八木マート IC	10 分	石和温泉駅
大阪	名神高速道路・中央自動車道 5 時間	飯代八木マート IC	10 分	石和温泉駅

### 中央高速バス利用の場合

新宿	中央自動車道 1 時間 50 分	石和
----	---------------------	----

## 「笛吹川石和鶺鴒」会場・うかい屋



### 【お問合せ】

笛吹川石和鶺鴒保存会  
笛吹市観光商工課  
TEL:055-262-4111  
山梨県笛吹市石和町市部 777



ふるさと観光ナビ



THE PEACH CITY  
FUJIKI



# うかいさん 鶺鴒という漁法

## かちう 八百年の伝統、徒歩鶺鴒

毎年 7 月 20 日～ 8 月中旬  
(水・木・土・日) 開催

鶺鴒と聞いて思い浮かべるのは、岐阜県ぎふ長良川の鶺鴒だと思えます。かがり火につれて集まってくるアユを、鶺鴒舟に乗った鶺鴒匠が何羽もの鶺鴒を操り、捕まえる様は見事としか言いようがありません。

ぎふ長良川の鶺鴒は宮内庁の御料鶺鴒であり、皇室の保護のもとで行われています。鶺鴒匠は宮内庁式部職鶺鴒匠として国家公務員の身分をもち、鶺鴒という伝統文化を後世に伝えていく仕事をしています。

長良川以外の地域でも鶺鴒が行われています。おそろ鶺鴒は、漁の一つの方法として、鶺鴒のことをよく知っている人々によって全国に広まっていったと考えられます。例えば、現在、東京都と神奈川県の間を流れる多摩川では鶺鴒が行われていますが、以前は行われていました。江戸時代の浮世絵師・安藤仏重の錦絵には、多摩川の鶺鴒が描かれています。このように、鶺鴒は記録にあるだけでなく全国 150 か所以上で行われていました。しかし、網漁の発達により、漁としての鶺鴒は衰退していききました。

鶺鴒は全国 12 か所で行われていますが、漁としての鶺鴒は御料鶺鴒だけで、あとはすべて観光のための鶺鴒です。毎年、夏に笛吹川で行われている石和鶺鴒も観光鶺鴒の一つです。石和鶺鴒は、鶺鴒匠が舟に乘らずに歩きながら鶺鴒を操る徒歩鶺鴒という珍しい漁法を用いています。



ぎふ長良川の鶺鴒



山梨県 笛吹市



笛吹川石和鶺鴒 (徒歩鶺鴒)

## 現在日本でされている鶺鴒

鶺鴒は記録にあるだけでも全国150か所以上で行われていました。しかし、網漁の発達により、漁としての鶺鴒は衰退していきました。鶺鴒は全国12か所で行われています。



## 全国で唯一の徒歩鶺鴒



笛吹川石和鶺鴒

笛吹川石和鶺鴒は、徒歩鶺鴒と呼ばれ、他の多くに見られる小舟に乗って数羽を操るスタイルと異なり、川の中を歩き、1羽の鶺鴒を操り行う「鶺鴒・匠」一体の漁法です。徒歩鶺鴒は国内で行われている鶺鴒の中でも大変珍しい全国で唯一の漁法であり、800有余年の歴史があります。

現在は笛吹川石和鶺鴒保存会が伝統を受け継ぎ、毎年鶺鴒の実演を行っています。鶺鴒の実演は毎年7月20日～8月中旬(期間中の水・木・土・日)に行われ、無料で観覧することができます。

## 笛吹川石和鶺鴒の鶺鴒の装束

### 風折烏帽子(かざおれえぼし)

頭や眉毛をかが火から守ります。頭に巻き付けた形が風に吹かれたよう見えるので、この名がつけられたと言われています。先がとがっているのはちょんまげを取っていたためです。

### 漁服(りょうふく)

無地の紺色の木綿性の服。筒袖の長着で、夏場暑くないよう単衣になっています。

### 胸あて(むねあて)

漁服の上に着用します。火の粉や松脂から身を守ります。ポケット代わりになります。

### 腰蓑(こしみの)

ワラで作られ、水しぶきの侵入を防ぎ、防寒の役割を果たします。笛吹川石和鶺鴒の腰蓑は鶺鴒匠が川に入る漁法のため、歩に時に支障がないように丈が膝よりも上になっています。



## 鶺鴒で使用される鶺鴒



鶺鴒に使用される鶺鴒は空腹のまま漁に臨みます。鶺鴒の餌は、主に冷凍のサバです。鶺鴒シーズン中は、鶺鴒にしっかり鮭を獲ってもらうため、餌の量を少なくして、漁に行く前にはいつも空腹の状態にしています。

## うかい屋

笛吹川石和鶺鴒に使われる鶺鴒は『うかい屋』と呼ばれる専用飼育施設で飼育をしています。『うかい屋』は2018年に建設され、鶺鴒の練習ができる専用のプール、病気やけががなった鶺鴒を隔離できる設備が備わっています。

鶺鴒を行っていないオフシーズンでも見学が可能です。  
※事前のご連絡をお願いします。

うかい屋内観



鶺鴒が個室で療養できる設備になっています。

うかい屋外観

手綱を付け、潜る練習やエサを獲る練習を行っています。



専用プールでの鶺鴒練習

鶺鴒匠が番番制で、清掃とエサやりを行っています。

